



### キャリア教育 ちょこっと研修 その19

#### 主体的に行動することで、成長や成功の機会が大きく変わる

#### 1 魅力的な本の紹介

先日『まんがでわかる7つの習慣』(〔監修〕フランクリン・コヴィー・ジャパン、〔まんが〕小山鹿梨子 宝島社発行)という本に出会いました。この本では、世界で最も影響力のあるビジネス思想家の1人で、リーダーシップ論の権威であるスティーブン・リチャード・コヴィー氏の著書を日本語訳した「完訳

#### <人生を変える7つの習慣>

- |       |                  |
|-------|------------------|
| 第1の習慣 | 主体的である           |
| 第2の習慣 | 終りを思い描くことから始める   |
| 第3の習慣 | 最優先事項を優先する       |
| 第4の習慣 | WINWINを優先する      |
| 第5の習慣 | まず理解に徹し、そして理解される |
| 第6の習慣 | シナジーを創り出す        |
| 第7の習慣 | 刃を研ぐ             |

7つの習慣 人格主義の回復」(フランクリン・コヴィー・ジャパン 訳、キングベアー出版)の内容を、漫画を交えながらわかりやすく紹介してくれています。

人は誰も「成功したい」という思いをもっていると思います。この本の最初では、真の成功は人格を育てることから始まり、コヴィー氏が言う「7つの習慣」を身に付けることで人格を高めることができると書かれています。

この本は漫画で具体的なエピソードを交えながら伝えたいことを簡潔に解説してくれているので、非常に読みやすかったです。それと同時に生徒のみなさんにぜひ伝えたいと思いましたし、先生方にも読んで欲しいと感じました。そこで、1例を示してみます。

#### <第1の習慣 「主体的である」のエピソード>

この漫画の主人公の中田歩は亡き父が開いていたバーを再開させるために、今はバー「セブン」でバーテンダーの修行をしている。そんなある日、店の常連の40代の会社員が会社の飲み会の帰りに部下を連れてやってきた。

その部下はとても優秀で、40代の会社員は色々と教えて育てたいと考えているのだが、その若手社員は、冷めていて、指示したことしかやらないし、意見を求めても消極的、できるだけ声をかけているのだが、それを煙たがられる・・・。

ある日、バー「セブン」の常連客で、近くにある有名イタリアンレストランのオーナーがこの2人のサラリーマンの会話に仲間入りする。

40代の会社員がトイレのため席をはずしたとき、若手社員とレストランオーナーが本音で話を始める。

オーナー：君はどうして今日この店に来たの？

若手社員：「仕事」ですよ。命令されたから来ただけです。

オーナー：つまり「主体的な意図はゼロ」

若手社員：当然じゃないですか。本当なら帰ってゲームしたいし。

オーナー：君、本当にそんなことで成功するつもりなの？

若手社員：俺はやるときはやりますよ。ただ今の会社で本気を出しても…。

オーナー：君は何でも受身なんだね。ただ状況に流されて行動しているだけじゃないか。自分の力が発揮できないことを環境や状況のせいにするのはただのわがまま。それじゃ「何もしません」と言っているのと同じだ。「与えられた環境でどう振舞うか」でしか人間は前に進むことはできないのに…。君はいかにも「上司から何も学ぶことはない」という口ぶりだったけど、「彼から何も学ばない」という選択をしたのは君じゃないのか？つまり「行動しない」ことを選択をしたのは君じゃないのか？つまり「行動しない」ことを選択しておいて「いい目が出ない」と文句を言っているだけなんだよ。言われるままに振舞うのではいつまでたっても自分らしい人生なんか引き寄せることはで

## 2 こういう指導もできるのでは？

このエピソードを読んだとき、ふと思ひ浮かんだのは「予習」です。私は平成24年度に中高の相互乗り入れで、高校1年生の数学の授業を担当しました。生徒の多くは予習をして授業に参加していました。想像するに、生徒の予習をする理由は「予習しておかないと授業についていけない」という危機感が多かったように思います。

授業の予習に関してキャリア教育の視点で指導ができるのではないかと私は考えています。例えば、こういう語りはいかがでしょう？

人生で成功するには主体的であることが大切です。これから「完訳 7つの習慣 人格主義の回復」という本に書いていることを紹介します。

主体性とは、・・・人間として、自分の人生の責任を引き受けることを意味する。私たちの行動は、周りの状況ではなく、自分自身の決定と選択の結果である。（同 P81）

行動を起こすのはあなたの責任である。自ら責任を引き受け行動を起こすのか、それとも周りから動かされるのか、どちらの道を選ぶかによって、成長や成功の機会も大きく変わるのである。（同 P89）

ここで主体的に行動して自分自身成功したと感じた経験や知人のエピソードを紹介すると説得力が上がると思います。その後でこんな感じに言ってみてはいかがでしょうか。

予習することも同じです。予習して自分がきちんと理解できないところはどこかを把握し、その説明にさしかかったときには全力で説明を聞く。こういう思いで授業に取り組むことで理解はぐっと深まると思うし、授業での満足度はきっと高まると思います。教室の40人が、授業で教えてもらえることはみんな同じでも、そこから学ぶことが充実するかどうか、授業の満足度が高まるのかどうかは自分次第。予習をきちんとするのは、自分の将来の成功のために大切なことなのです。

《文責 嶋田暢也》